

SAGAMIHARA GREEN

URL <https://www.sagamiharashi-machimidori.or.jp>

相模原市まち・みどり公社機関紙
さがみはらグリーン

★「さがみはらグリーン」は、まち・みどり公社本社（けやき会館内）をはじめ、市内の市立公園や公民館、図書館等に配架しています。

臨時
増刊号

2020.12

2～3ページ▶

深町貴子先生に植物の魅力を
語っていただきました

「誰かを呼ぶ声」

4ページ▶

クリスマスからお正月まで～
気軽に楽しもう！リースづくり

果樹の冬作業～ カキとミカン

樹木医 内藤 研二氏

冬は果樹にとって光合成をはじめ多くの活動を休止する休眠期になります。休眠期だからこそできる作業を行いましょ。剪定、施肥、病害虫防除が作業の3本柱です。

カキは落葉樹、ミカンは常緑樹です。作業時期の違いに注意してください。

カキの剪定は葉を落とした12月から始めます。この時期、太く短く充実した枝の先に3～4個の花芽を着けるので、花芽を取らない剪定をします。花芽は葉芽に比べて大きくふっくらした形をしています。今年実を着けた枝に来年は実を着けないので、その枝は剪定の対象になります。枯れ枝、病気の枝、弱い枝は剪定します。剪定する枝はぶつ切りにせず、枝の枝元から切除します。花芽にしっかり陽を当てることを念頭に切る枝を選びます。

肥料（「元肥」）として剪定と同じ時期に魚粉、油粕、骨粉、米ぬか等の堆肥を成木で1.5kgとリン酸分の多い化成肥料100gを施します。堆肥は必ず土中に埋めてください。

病害虫防除は樹体に残るカイガラムシ、ハダニなどの越冬虫や炭疽病、黒星病などの越冬胞子を殺虫、殺菌します。

農薬は石灰硫黄合剤を使い、厳冬の2月初旬に行います。同剤は強アルカリ性で臭いも強く、扱いに注意が必要ですが、天然由来なので化学農薬に比べ安全です。

ミカンの花芽は5cm程の枝の先端に1つだけ着けます。枝の先端を切ることはご法度です。剪定は枝元から切除する間引き剪定、切り返し剪定を使い分けて行います。時期は3月中旬に元肥とともに行います。病害虫防除はカキと同じ2月初旬に石灰硫黄合剤を散布します。



コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社は、相模原市まち・みどり公社が推進する「みどり豊かなまちづくり」に協賛しています。

公益財団法人 相模原市まち・みどり公社は、地域のために活動する自治会を応援しています。

深町貴子先生に 植物の魅力を語っていただきました 「誰かを呼ぶ声」

“自然が好き”

子どもの頃から庭で遊ぶのが好きでした。農業系の学校に行き、園芸店を営み、園芸家として仕事をしています。しかし、「あなたは植物が好きですか？」と聞かれても、何と答えていいのかわかりません。もちろん、嫌いではありません。好きとか嫌いという思いはないのです。でも、植物はこの星に必要なもの…生きていく上でかかせないもの…という認識は常にもっています。だから、とても大事だし、植物をとりまく環境を大切にしたいと思っています。

“日焼けの理由”

子どもの頃からいつも背中だけが日焼けしていました。大人になってもそれは変わらず、むしろ酷くなっているかも？(笑)。なぜかという、いつも下を向いてジッとしているからです。しゃがみ込んで、無心になって土をいじったり、虫を追いかけてたりして観察していたためです。虫が好きなのですか？と尋ねられたら、それはたぶん苦手かも…。特に、昆虫の中で最も苦手なものはアリです。なのに、アリの生態にはとても詳しいかもしれません。だって、苦手だからこそ、知っておきたいのです。

“アリと仲良し”

私の身の回りにアリがとても多い理由…それは、たぶん植物が豊富にあるからです。生まれ育った家も、近くに野山があり、家の中も外も植物で溢れていました。そのため、アリから生態系に興味を持ち、植物だけではなく自然環境という、まとまりで景色を見ていた気がします。花も野菜も観葉植物も、庭の木々も、植物たちは単独では暮らせず、多くの昆虫や動物、微生物、太陽や大気の力を借りて生きています。アリは昆虫の中でも、植物が生きていくために、なくてはならない存在だと思います。植物にとって土の中にアリの巣が出来ることは、水や空気の通りを良くします。また昆虫の死骸をバラバラにして土の中に運べば、やがて分解されて植物の栄養になったり、害虫を寄せ付けずに護衛としてアリを呼んだりします。つまり植物とアリは、私と違ってどうやら仲が良いらしいのです。



園芸家 深町 貴子氏(神奈川県出身・在住)
有限会社タカ・グリーン・フィールズ専務取締役
NHK「趣味の園芸やさいの時間」、NHK「あさいチ『グリーンスタイル』」等の講師のほか、TVや雑誌のご出演多数。
生態系のしくみや不思議を独自の視点で語り、植物を育てることの楽しさを広めるため全国各地でご活躍中。
YouTubeで園芸番組「Horti」を配信中。



“アリを呼びたい植物”

昆虫は甘いものが好きです。植物によってはアリを呼び寄せるために蜜腺をもっている場合があります。たとえば、ソラマメの葉のつけ根にある托葉には、ホクロのような黒い斑があります。実はここに蜜腺があります。花以外の場所(葉の付け根や托葉など)にある蜜腺のことを花外蜜腺といいます。冬にソラマメを育てている方は、ちょっと不思議な模様が見えるはずですよ。春になるとアリが蜜腺を目指してやってきます。いつも茎や葉をウロウロすることで、葉を食害する昆虫を寄せ付けられない利点が植物にはあるからです。確かにソラマメの葉は食害されにくいですね。その代わりに、アリが多くなると決まってアブラムシがやってきます。ソラマメはアブラムシまでは計算していなかったのかしら？そんな時は、アブラムシが飛来する時期に新芽を折り取ると良いですよ。アブラムシは新芽が大好き。最初に必ず頂点の新芽につきますので、先に美味しいところを取ってしまえばよいのです。実がならないって？大丈夫。そのころには、たくさんの花が下から咲いていますよ。1枝につき5〜6房の莢がついていたら、頂点の芽を摘むように摘心しましょう。アブラムシの繁殖を抑え、莢の肥大を促すこともできます。同じくサツマイモの葉にも花外蜜腺がありますので、来年はサツマイモのどこに蜜腺があるのか探してみてください。



ソラマメの蜜腺をなめるアリ



“変なところに咲くスマイレ”

春になると大好きなスマイレの花が咲きます。道ばたや階段の隅、アスファルトの割れ目など、一カ所に留まらず、いろいろな場所で咲いています。毎年決まった場所から咲いてくれない理由は、これもアリの仕業だからです。スマイレのタネにはアリが好む餌がついています。アリはこの餌が欲しくて、巣までスマイレのタネを運び入れます。巣の中には調理するアリでもいるのでしょうか？しばらくすると、餌を外してタネだけを巣の外にポイと捨てます。そのため、コンクリートの隙間などから、スマイレの花を見ることができるようになります。

不思議な場所で花を見つけると、宝物に出会ったようにいつも嬉しく思いましたが、それはアリがタネを運んだからなのです。スマイレはより遠くにタネを運ぶために、アリの釣り餌をタネに付けることを考えたのです。この釣り餌の正体はエライオソームという物質で、他にもカタクリやヒメオドリコソウにもついています。

“あなたを呼ぶ声”

植物も昆虫も、生き物の全てが互いに影響し合っていて、バランスをとっています。私はその生き物たちの言葉を知るのが、面白くてならないのです。

キャベツがアオムシに食べられると、アオムシを退治するため、香りで特定の寄生蜂を呼ぶことをします。風に運ばれた香りはキャベツのSOS信号。その信号をキャッチできる特定の昆虫がいたりします。様々な植物の花の色や香りも、受粉を手伝う虫たちを呼んでいるかもしれません。

植物が好きで、花や野菜が好きで…そんな方たちにとっては、大事な植物を食べる虫たちは許せないでしょう。仲良く暮らすどころか、すぐにでも排除したいかもしれません。でも、昆虫の全てが害虫ではないはずですよ。捕食する益虫まで排除しないように、大事なことは生態系バランス。困った虫が発生したら、必ずその理由を探してみましょう。

植物に携わる人は、環境の変化に敏感です。いつもと何かが違う…そう感じるができるのは、耳では聞こえない自然の声がわかるからだだと思います。私たちは高い樹木や鳥のように空から全体を見下ろし、アリのように地面から植物を見上げ、ミミズのように土の中を想像しましょう。それは人間にしかできない自然からの声への応え方だと思います。みどり豊かなまちは、そんな素晴らしい感覚を持った人たちがたくさんいる所です。どうか、目の前にある小さな鉢植えから、まちの緑まで広い視野をもって、環境を見守っていきましょう。

写真提供：深町 貴子氏



森は様々な命を守り、育てている

クリスマスからお正月まで～

気軽に楽しもう！

リースづくり

「アトリエ花とあそぶ」主宰 たかはしたかこ氏

【リースの材料】

■土台

ツルを巻いたリース

◇クズ（葛）が葉を落とす頃、まだ柔らかいツルを採取してリング状に形を整えれば、リース土台になります。2週間ほど乾かしてから使います。[他に、フジやヤマブドウなど]

■グリーン

コニファー、モミ、スギなどの針葉樹、セイヨウヒイラギ、ゲッケイジュ、アイビーなど

■オーナメント

【天然素材】

松ぼっくり、モミジバフウの実、綿の実、ユリノキの花柄、オニドコロ など

赤い実：サンキライ（サルトリイバラ）、クリスマスホーリー、トキリマメ、ノイバラ など

◇周辺の木々や、野にある草むらの中のをのぞくと、かわいいものが沢山あります。

【(生ではない) 装飾品】

リンゴ、ポインセチア、ベル など

■ワイヤー

クラフト用の地巻ワイヤー、巻きワイヤー（手で巻ける柔らかさのもので代用できます）

■その他

リボン、麻ひも、はさみ

「クリスマスリース」とは・・・

クリスマスに飾るリースは、その輪状の形状や常緑樹のグリーンから、「永続」「永遠」などを表し、魔除け・豊作祈願・新年の幸福祈願などの意味があるといわれています。

クリスマスカラーとして馴染みのある「緑」「赤」「白」「金銀」などの色にもそれぞれの意味が込められています。



スギの葉とモミジバフウの実



サンキライ（サルトリイバラ）



クリスマスホーリー



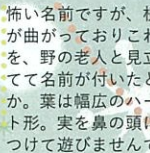
ノイバラ



トキリマメ



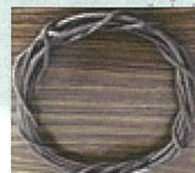
オニドコロ（鬼野老）



布い名前ですが、根が曲がっておりこれを、野の老人と見立てて名前が付いたとか。葉は幅広のハート形。実を鼻の頭につけて遊びませんでしたか。

【作り方・手順】

1 ツルを巻いたリース土台、スギやコニファーの葉など常緑樹を15cmの長さにカットしたものを用意（直径20cm程度のリースの場合、葉の重量目安として250g～300g）



2 リース土台を隠すように前面、側面（外周面）、後ろ面に葉を置き、地巻ワイヤーで葉の根本を一巻きする。
※最初のワイヤーを約10cm残しておく



3 次の葉（写真では赤で示しています）を同様に土台が見えなくなるように葉先をずらしながら根本を巻いていく。（葉先が時計回りになるように）。



4 3の作業を繰り返し土台を1周したら、2のワイヤーと最後に残ったワイヤーをつなぐ。



5 リースの形状を回し見て、上下位置を定め、吊り下げ用の麻ひもを取り付け、好みのオーナメント、リボンを飾ってできあがり。



【お正月用にアレンジ】



お正月用には、水引などを使って華やかさを演出します。紅白・金銀など種類も豊富です。

相模原市まち・みどり公社が推進する「みどり豊かなまちづくり」を応援しています

広告

KIRIN